

スジヒラタガムシ

Helochares nipponicus Hebauer
コウチュウ目・ガムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県では広く分布しているが、全国的に生息環境が減少しており、注視が必要な種である。

分 布

本州～九州に分布。今回の調査では、あわら市、坂井市、永平寺町、福井市、勝山市、大野市、越前市、越前町、敦賀市、若狭町、小浜市、おおい町、高浜町で記録された。

種の特徴

体長 3.8～4.3 mm。体は茶褐色で、比較的扁平。上翅には 10 点刻列があり、一部溝状となる。メスは卵を腹部に付着させて保護し、繁殖期も長く、生息地での個体数は多い。溜池や水田等の湿地に生息する。

生息を脅かす要因

湖沼、湿地の開発、ため池を含めた圃場整備、水質汚濁等が脅威となる。本県は生息地が多く、個体数も多い。分布の中心的地域として、本種の生息環境を維持していくことが望まれる。

参考文献 環境省 (2015)、福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、上野ら (1985)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○		○	○	○

シジミガムシ

Laccobius bedeli Sharp
コウチュウ目・ガムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧 I B 類

選定理由

本種の好む水生植物が豊富な池沼は、全国的に減少傾向にある。国内における現在確実な産地は、兵庫県及び広島県の 2 か所のみである。

分 布

北海道、本州、九州に分布。本県では過去に複数の記録があるが、最近記載された近似種の記録が混在する可能性がある。過去の情報の再検討を含めた調査が必要。

種の特徴

体長 2.9～3.2 mm。頭部及び前胸背板は黒褐色で、前胸背板の側縁部は黄褐色となる。上翅は黄褐色で、点刻の周辺は黒褐色となる。近縁種とは雄の交尾器の形態で区別する。成虫は 4～10 月に現れ、比較的深い水生植物の豊富な池沼に生息する。

生息を脅かす要因

池沼開発による生息地消失、水質汚濁、侵略的外来種の侵入等が脅威となる。県内での生息状況の把握が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、上出 (2007)、環境省 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○		○			○	○				○	○

ミユキシジミガムシ

Laccobius inopinus Gentili
コウチュウ目・ガムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

平成 27 年に本県から初めて記録された。現在確実な捕獲記録がある県内産個体は一つのみである。しかし、近縁種シジミガムシとの区別が困難であることから、従来シジミガムシとして記録されたものが本種の可能性もあり、正確な県内分布地は不明である。

分 布

琉球列島を除く関東以西に分布する。県内で記録された確実な生息地は水田周辺の湿地 1 か所だけである。しかし、本種の県内における分布調査は不十分である。

種の特徴

体長 2.9 mm の水生ガムシ類の一種。水生ガムシとしては隆起した体を持つ。比較的最近 (1980 年) 記載された種で、同属近縁種のシジミガムシと酷似する。池沼周辺の湿地や休耕田等の浅い水域に生息する。

生息を脅かす要因

池沼や湿地の消失、外来種の侵入、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 Gentili (1980)、上手 (2007)、環境省 (2015)、渡部 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○					